

大阪人間科学大学 卒業生・就業先アンケート（2026 年 3 月卒業生対象）

実施概要

本アンケートは、大阪人間科学大学卒業生（2026 年 3 月卒業）、また本学卒業生の就職先事業所を対象にアンケート調査を実施した。今後の教育活動の改善および卒業生支援に活用することを目的に本アンケートを実施した。

調査対象：2026 年 3 月卒業生および対象卒業生の就職先事業所

実施期間：2026 年 8 月 3 日から 9 月 1 日（30 日間）

実施方法：Google Form を用いたアンケート

・卒業生

学部 学科	回答件数
保健医療学部 理学療法学科	13
保健医療学部 言語聴覚学科	4
保健医療学部 作業療法学科	9
人間科学部 社会福祉学科	10
人間科学部 子ども教育学科	9
人間科学部 視能訓練専攻	4
心理学部 心理学科	12
合計	61

卒業生全体の回答率は、23.0%であった。

・就職先事業所

アンケート送付数	回答件数
158	72

就職先の回答率は、45.5%であった。

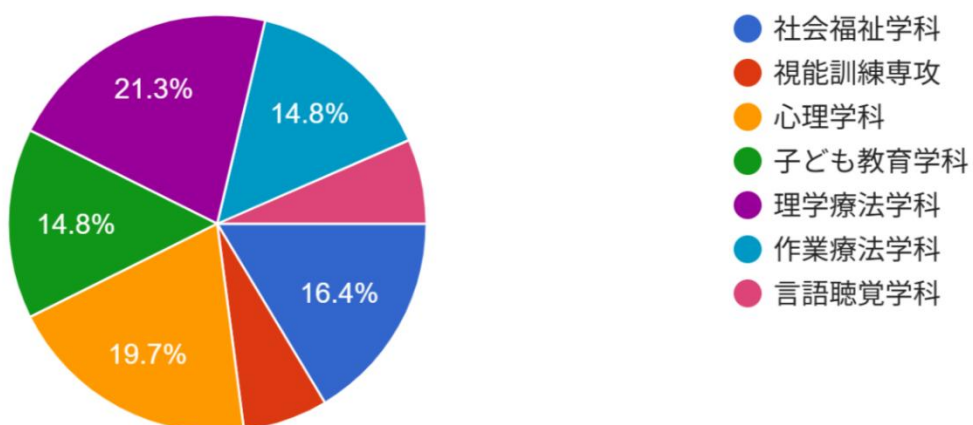
卒業生アンケート（2026年3月卒業生対象）

アンケート送付数：265

回答数：61

回収率：23.0%

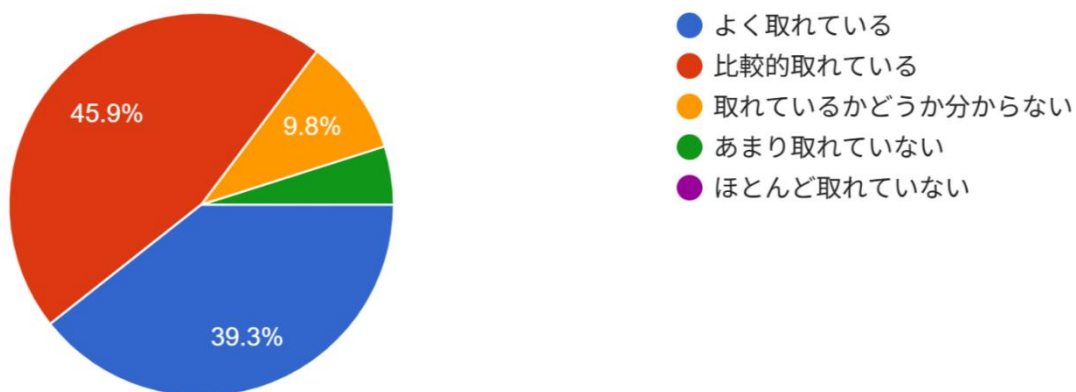
■所属していた学科



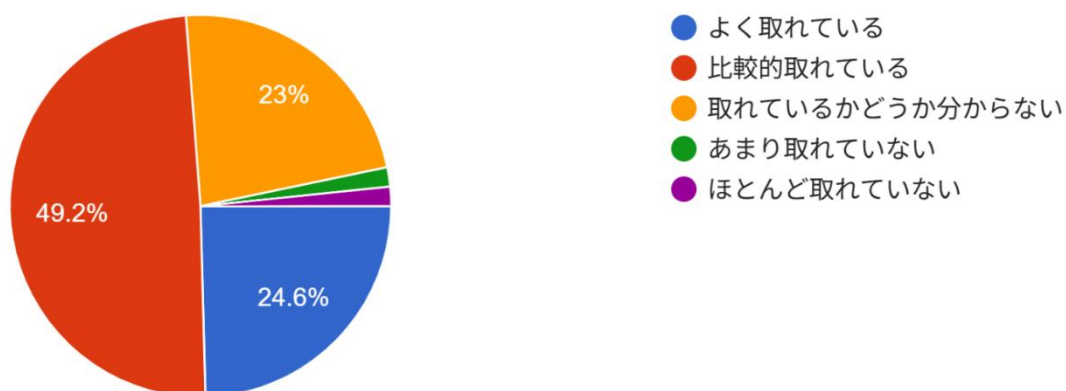
■現在も卒業時の就職先に勤務しておられますか



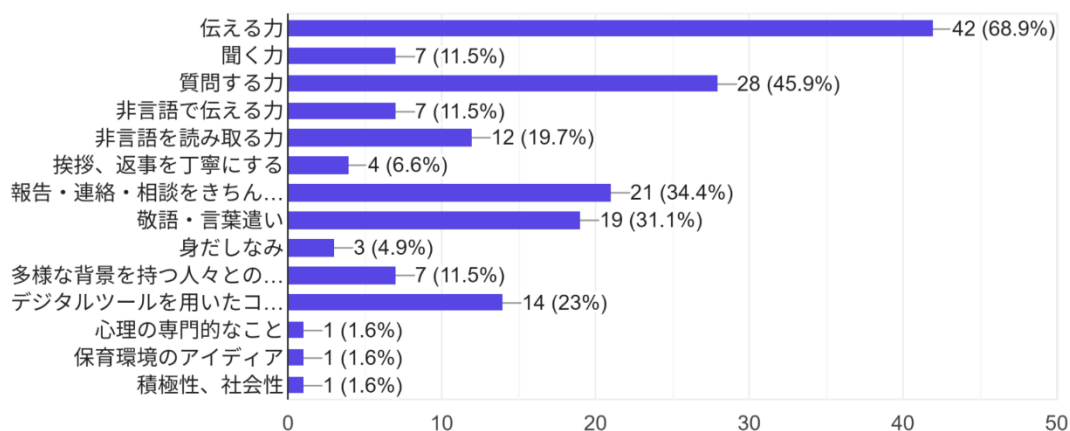
■同僚や上司と円滑なコミュニケーションが取れていると思いますか。1つだけマークしてください。



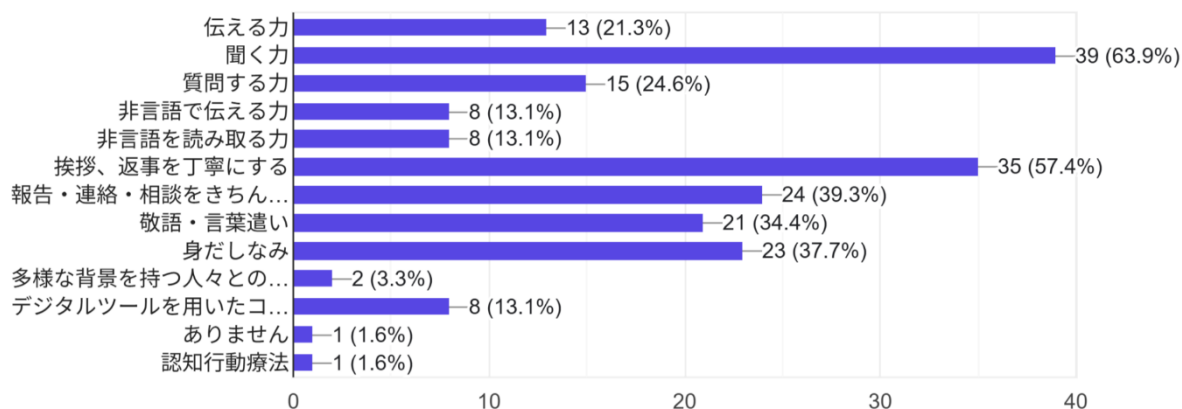
■他職種の方や患者様、利用者様、取引先様といった外部の人と円滑にコミュニケーションが取れていると思いますか。1つだけマークしてください。



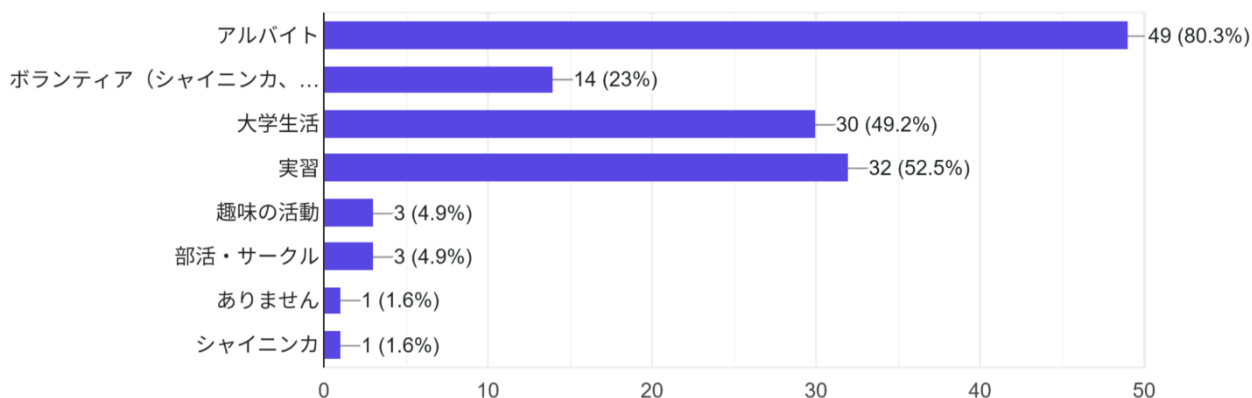
■学生時代に、もっと身に付けておけば良かったと感じるコミュニケーション能力はありますか（複数選択可）



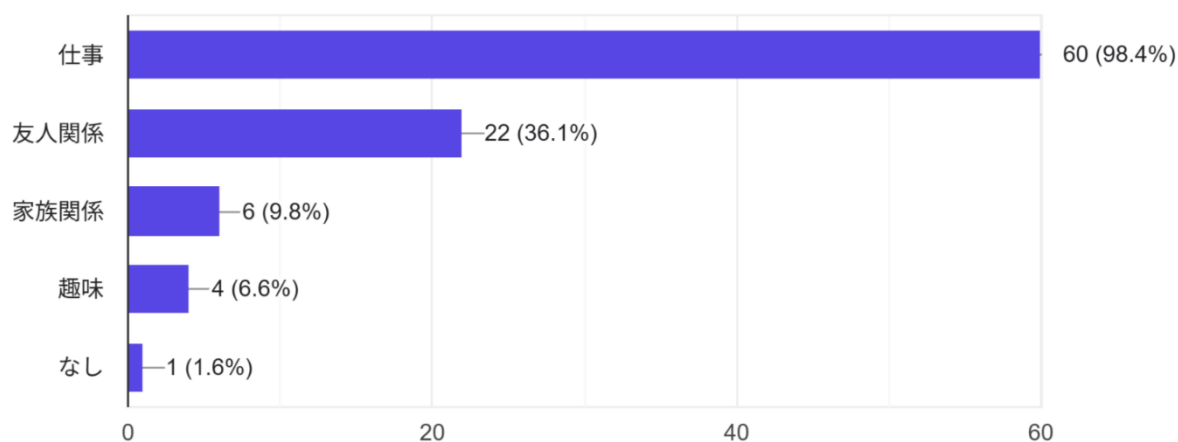
■学生時代に、身に付いた・自信を持てるようになったと感じるコミュニケーション能力はありますか？（複数選択可）



■前述のコミュニケーション力はどのような活動の中で身に付いた（成長）しましたか。（複数選択可）



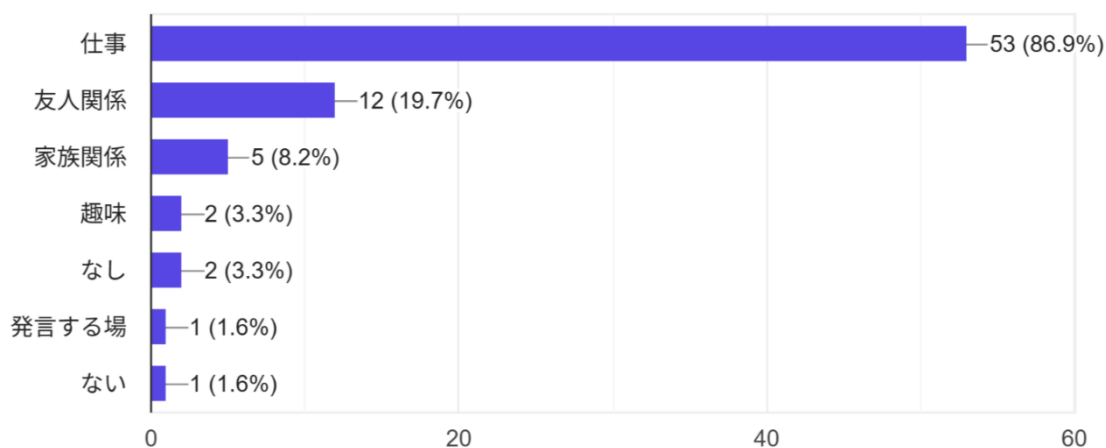
■卒業後どのような場面で前述の力を発揮していますか（複数選択可）



■その他と答えた方のみ それはどのような場面でしょうか？（自由記載）

- ・自信をもって伝えられるようになったのとする視野が広がった

■コミュニケーション面で課題を感じる場面はありますか？（複数選択可）



■上記の選択肢において具体的にどのような場面でしょうか？（例：初対面だと上手く話せない、質問するのが苦手など）（自由記載）

※38件の記述を内容に基づいて4つのテーマに整理・分類しました。

1) 職場内での質問・報連相・関係構築

①質問・確認へのハードル

- ・質問が苦手・できない
- ・質問したいが言葉選びが難しい
- ・話しかけるタイミングが分からなくなる

②報連相

- ・管理職・上司への質問や報告が緊張して上手く伝えられない
- ・仕事の現状の報告と相談が上手くできない

③人間関係

- ・一緒に働いている方たちとの関係構築
- ・上司とどのような話をしたらいいか分からない
- ・悩み相談を聞く時

2) 社外・外部への対応・説明・対人関係

①初対面での緊張

- ・初対面で緊張しすぎてしまう
- ・初回介入での患者様とのコミュニケーション
- ・子どもの保護者様と初めて話す際に失礼のないように話そうとすると緊張する

②説明力・言葉遣い

- ・患者様や保護者様に専門用語をかみ砕いてわかりやすく説明するのが苦手

- ・適切な言葉遣い
- ・丁寧に言葉を選ぼうとするとたどたどしい日本語になる

③対応の難しさ・会話の展開

- ・リハビリ初期評価時に拒否された際の対応
- ・お客様が選ばれた商品から別の商品紹介など会話を膨らませる難しさ

3) 媒介（電話・チャット・語学）および多様性への対応

①電話・非対面ツール

- ・電話対応で声だけのコミュニケーションが難しい
- ・対面ではないためしっかりと正しく伝わっているか不安
- ・在宅ワークでチャットでのコミュニケーションが難しい

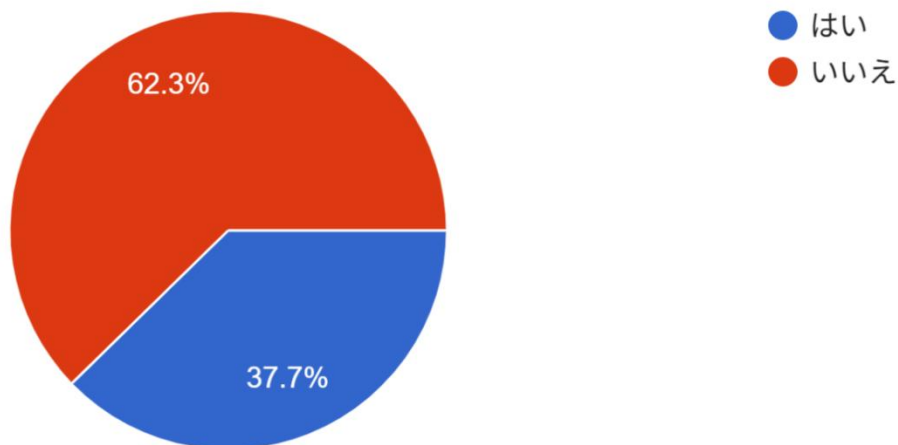
②多様な相手・語学

- ・様々な価値観を持った方がいるため相手の正解がなく難しさを感じる
- ・海外の方が来たときに英語で検査ができない

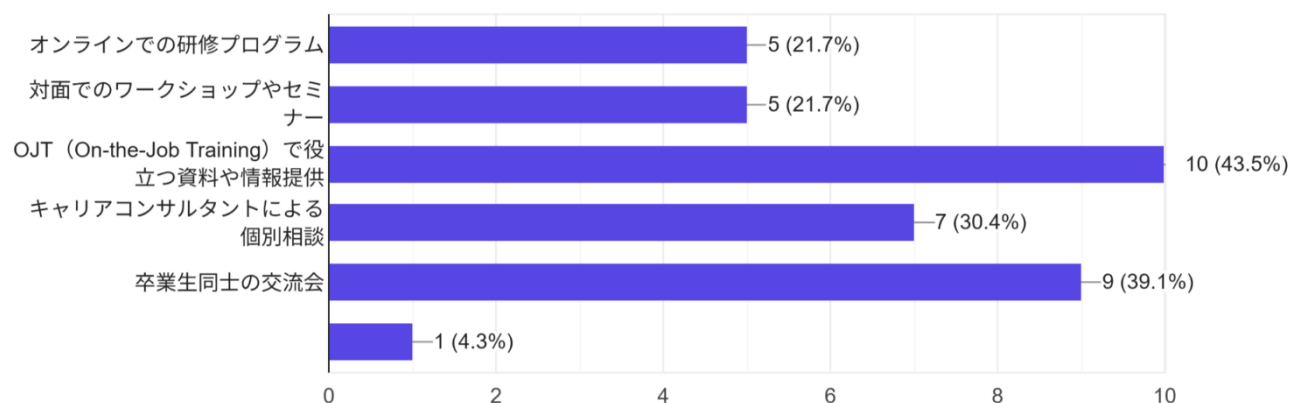
4) 生活環境の変化

- ・新社会人になり、家族と離れて生活するようになったため、実家に帰った際に人がいることに辛さを感じた

■今後、大学からコミュニケーション能力向上に関する何らかの支援（研修、情報提供など）があれば利用したいと思いますか？



■（「はい」と答えた方のみ）どのような支援が有効だと考えますか？（複数選択可）



■考察

本アンケートは、主に卒業生の職場でのコミュニケーションの現状や課題を明らかにし、今後の教育活動の改善および卒業生支援に活用することを目的として実施した。

調査結果から、卒業生の多くが学生時代に培ったコミュニケーション能力を職場で発揮し、良好な関係を築いていることが示された。一方で、実務を経験するなかで「伝える力」や「質問する力」といった発信力、上司や多職種との人間関係構築における心理的ハードル、専門職としての説明力などに具体化された課題を抱えていることが明らかとなった。

1. 学生時代に培った力の職場における定着と発揮

回答した卒業生全員が卒業時の就職先で勤務を継続していた。同僚や上司との円滑なコミュニケーションについては、85.2%が「よく取れている」「比較的取れている」と回答し、「あまり取れていない」は4.9%にとどまった。また、98.4%が学生時代に身に付けた力を「仕事」で発揮していると答え、友人関係（36.1%）や家族関係（9.8%）など職場外にも活かされていた。自由記載にも「自信をもって伝えられるようになった」「考える視野が広がった」といった成長を実感する記述が見られた。

身に付いたと感じる力は「聞く力」（63.9%）、「挨拶、返事を丁寧にする」（57.4%）、「報告・連絡・相談をきちんとする」（39.3%）などであり、対人援助職の土台となる姿勢や態度が学生時代に形成されていた。これらを身に付けた場面としては、アルバイト（80.3%）に次いで実習（52.5%）、大学生活（49.2%）が挙げられ、本学の教育の場が成長の機会として機能していることがうかがえる。

2. 職場における具体的コミュニケーション課題の顕在化と「発信力」

「もっと身に付けておけば良かった」と感じる力は「伝える力」（68.9%）と「質問する力」（45.9%）が上位を占めた。一方で「聞く力」（11.5%）や「挨拶」（6.6%）に対する不足感は低い。基礎的な態度が定着したからこそ、実務を通じて「自分の考えを伝える」「必要なことを尋ねる」という次の成長段階（発信力）に課題が見えてきたものと捉えられる。自由記述の分析からは、卒業生が直面している課題が単なる日常会話ではなく、「職場での人間関係構築」や「専門職としての伝達技術」に集中していることが判明した。

- ・上司・他職種との関係性と心理的遠慮

「喋りたくない上司がいる」「看護師さんが忙しそうで気を遣って話せない」「初対面だと緊張して上手く話せない」など、職場内での人間関係や多職種連携における心理的ハードル、質問のタイミングや言葉選びに対する悩みが顕著であった。

- ・状況や相手に応じた説明力・言葉遣い

「丁寧に言葉を選ぼうとするとたどたどしい日本語になる」「保護者や親御さんなどに専門用語をかみ砕いてわかりやすく説明するのが苦手」など、敬語の適切な運用や、相手の立場に合わせた専門知識の言語化に難しさを感じている。

在学中から実習等で質問・報告やわかりやすく伝える経験を重ねることが、こうした現場での心理的抵抗の軽減と発信力の向上につながると考えられる。

3. 外部・非対面・多様な相手への対応における「伝わっている」実感の得にくさ

患者様・利用者様・取引先様など外部の方とのコミュニケーションは、73.8%が円滑と回答した（内部の85.2%よりやや低い）。「あまり／ほとんど取れていない」は3.3%にとどまる一方、「取れているかどうか分からない」が23.0%（内部は9.8%）と増加した。これはスキル不足というよりも、経験不足やフィードバックを得にくい環境に起因する自己評価の不確かさが背景にあると推測される。

自由記述には、初対面の患者様・保護者様への緊張、電話やチャットなど非対面媒体での「伝わっているか分からない不安」、多様な価値観や外国語への対応に関する困り感が挙げられた。「コミュニケーション面で課題を感じる場面」として「仕事」が86.9%を占めたことは、実践の場で卒業生が自身の課題を客観的かつ具体的に認識し始めていることの表れといえる。

4. 大学による継続支援ニーズの傾向と今後の支援策

大学からのコミュニケーション能力向上支援（研修や情報提供等）に対する利用意向（回答数61件）は、「利用したい（はい）」が37.7%、「利用したくない（いいえ）」が62.3%であった。6割以上は現状での支援を必要としていないものの、約4割の卒業生は卒業後も大学によるアフターフォローや継続的なサポートを求めている。現場で直面する具体的な場面（保護者対応、多職種連携、敬語運用など）に特化したサポートへのニーズが存在していることがうかがえる。

具体的な支援内容として、以下の選択肢が有効と捉えられている。

- ・実践的なツールの提供（43.5%）

OJTで役立つ資料、質問・報告の例文集、専門用語の言い換え集など

- ・交流の機会（39.1%）

悩みや工夫を共有できる卒業生同士の交流会

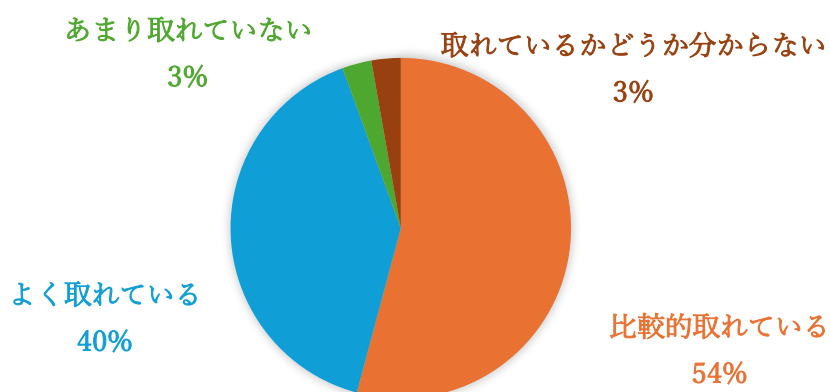
- ・個別相談・研修（30.4% / 各21.7%）

キャリアコンサルタントによる個別相談や、オンライン・対面での実践的セミナー

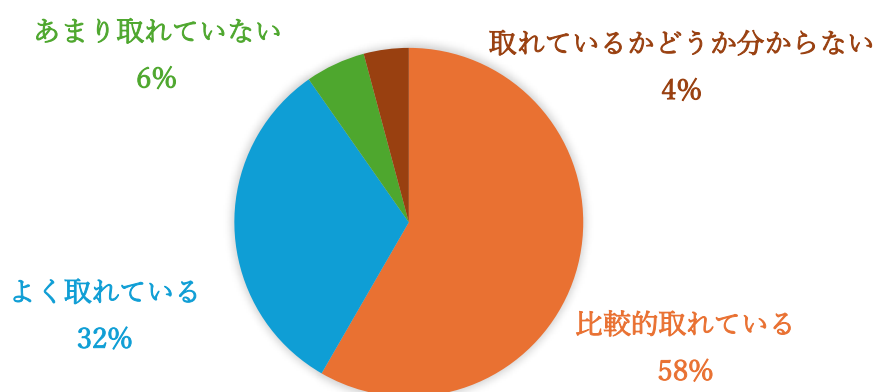
本調査は卒業後間もない時期の状況を捉えたものであるため、今後は経年変化や職場側の視点も加味した継続的な検証が必要である。卒業生が社会でより自信を持って活躍できるよう、在学中に「報告・連絡・相談」や敬語、伝える力を培う教育を強化するだけでなく、卒業後も現場の悩みに即した実務的な情報提供や個別相談体制を整えるなど、在学中教育と卒業後フォローが連動した継続的な支援の構築が求められる。

就職先アンケート（2026 年 3 月卒業生対象）

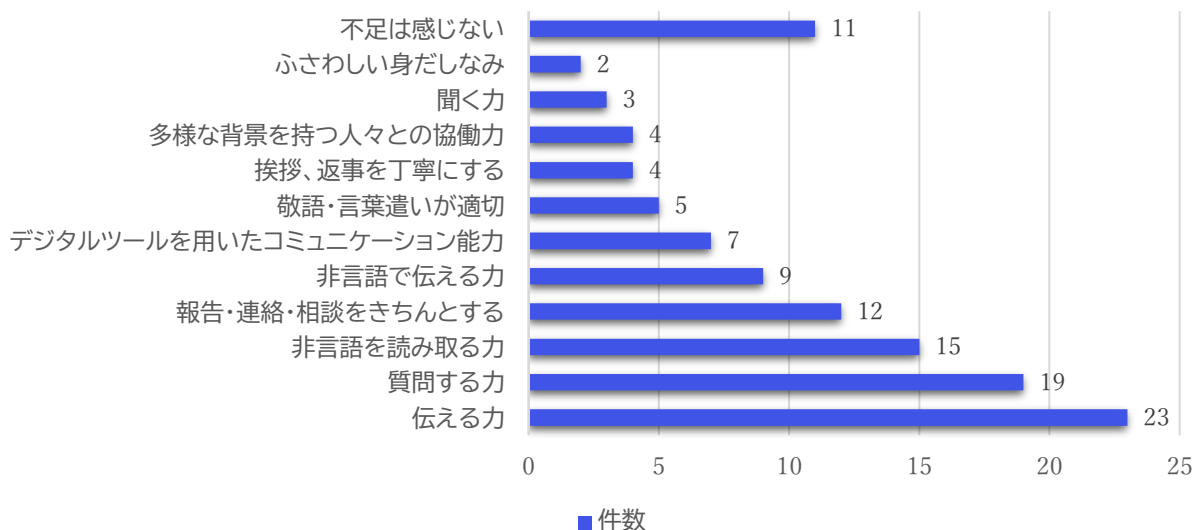
■ 本学卒業生は、同僚や上司の皆様と円滑なコミュニケーションが取れていますでしょうか



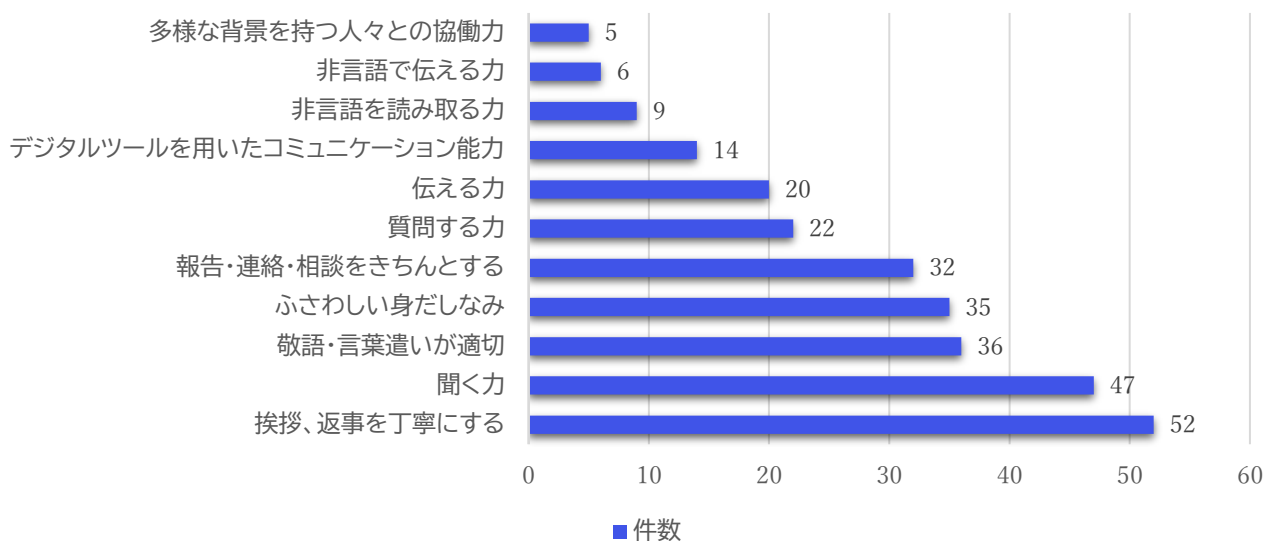
■ 本学卒業生は、他職種の方や患者様、利用者様、取引先様といった外部の人と円滑にコミュニケーションが取れていますでしょうか



■ 本学卒業生に対し、どのようなコミュニケーション力が不足していると感じることがありますか？
（複数選択可）



■ 本学卒業生に対し、社会人になる時点で身に付いていたと感じるコミュニケーション力はどのようなものですか？（複数選択可）



■ 貴社・貴法人で活躍されている新卒生の特徴をお教えてください

※11件の記述を内容に基づいて4つのテーマに整理・分類しました。

1) 人柄・態度

- ・非常に真面目で素直、謙虚な姿勢で仕事や周囲に向き合っている。
- ・挨拶がきちんとでき、患者様・利用者様・同僚に対して丁寧で優しい対応ができる。
- ・明るく元気で親切・さわやかな対応ができ、職場に早く馴染んでいる。
- ・チームワークや協調性を大切にし、周囲と協力して業務を進められる。

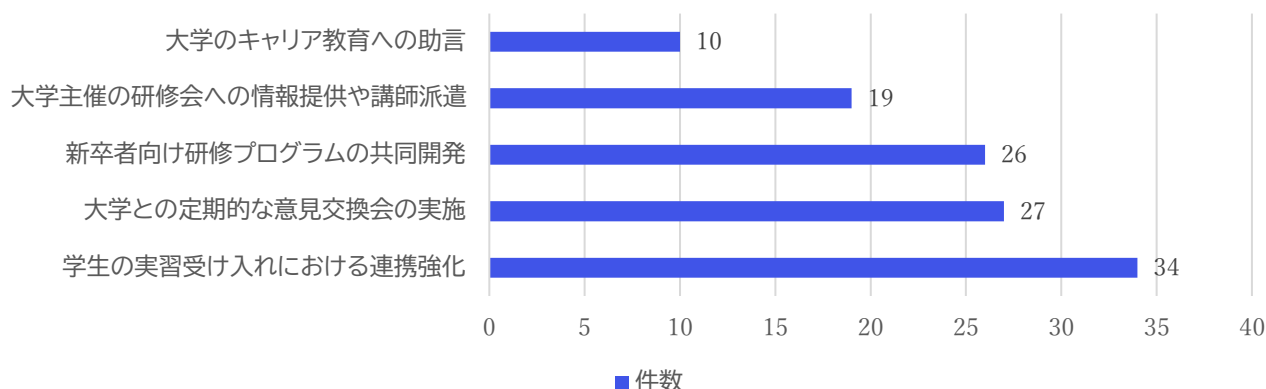
2) 業務への取り組み・能力

- ・学ぶ姿勢・成長意欲が高く、分からないことは素直に質問して自発的に知識・技術を習得しようとしている。
- ・患者様や利用者様一人ひとりに寄り添い、丁寧かつ誠実に支援・ケアを行っている。
- ・与えられた役割やルール、身だしなみ・マナーを守り、真面目に仕事に取り組んでいる。
- ・主体性や挑戦心があり、企画の立案や新しい業務への意欲を見せる職員もいる。

3) 組織への貢献・課題

- ・報告・連絡・相談（ホウレンソウ）の意識を持ち、自己判断せずに確認しながら進められている。
- ・比較的小となしく控えめなタイプも見られるが、内面的には誠実で業務へ丁寧に向き合っている。
- ・急な欠勤やメール・連絡のレスポンス、時と場合に応じた簡潔な伝達・場面に応じたコミュニケーションには一部課題を感じるケースもある。

■今後、大学が卒業生のコミュニケーション能力向上に関して何らかの支援を行う場合、どのような連携や情報提供を期待されますか？（複数選択可）



■考察

全体の傾向として、本学卒業生は職場において極めて良好なコミュニケーションを実践していると高く評価されている。同僚や上司とのコミュニケーションにおいては94.5%（「よく取れている」40.3%、「比較的取れている」54.2%）が肯定的に評価している。また、外部関係者（他職種、患者・利用者、取引先など）に対しても90.2%（「よく取れている」31.9%、「比較的取れている」58.3%）が円滑であると回答しており、社会人としての基礎的な対人関係スキルを有しているとみられる。

入職時点で身に付いていたと感じる能力としては、「挨拶、返事を丁寧にする（72.2%）」が最も高く、次いで「聞く力（65.3%）」が挙げられることから、基本的なマナーや傾聴の姿勢は在学中に備わったとみられる一方、「敬語・言葉遣いが適切（50.0%）」、「ふさわしい身だしなみ（48.6%）」が半数程度である点は、今後向上を目指す余地があるものと考えられる。

一方で、不足していると感じる能力としては「伝える力（31.9%）」および「質問する力（26.4%）」が上位に挙げられた。対人関係やマナーは良好であるものの、「自分の考えや意思を整理して伝えること」や「業務上の不明点を自ら効率的に質問・確認すること」に課題を残すケースが散見される。また、「非言語を読み取る力（20.8%）」や「メール等デジタルツールでのコミュニケーション（入社前の返信速度など）」を指摘する声もあった。不足する点を補う方策を立てることは容易ではないが、活躍する新卒者の特徴を目標に、検討されることが望ましいとみられる。

今後期待される連携としては、「学生の実習受け入れにおける連携強化（47.2%）」が最も高く、次いで「大学との定期的な意見交換会（37.5%）」、「新卒者向け研修プログラムの共同開発（36.1%）」が続いた。実習施設や就業先との意見交換・連携強化を進めることが、卒業生の早期定着と活躍を後押しする施策になると考えられる。